

コミュニティひばり地区防災計画

みんなで助け合う減災



平成 30 年（2018 年）11 月

宝塚市長尾台小学校区まちづくり協議会

目次	1
1 基本方針（地区防災の基本的な考え方）	2
2 計画名称・計画対象地区と策定主体	3
(1) 計画名称	
(2) 計画対象地区	
(3) 計画策定主体	
3 地区の特性と予想される災害	4
(1) 地区の特性	
(2) 予想される災害	
4 活動内容	5～6
(1) 平常時の取組	5
(2) 災害時の取組	5
(3) 避難行動要支援者（災害時要援護者）等への支援	6
5 地区の防災対策（具体的な対策）	7～8
(1) 防災体制	7～8
(2) 活動体制	9
(3) 地区の連絡網	10
(4) 防災関連施設	11
(5) 防災資器材等	11
(6) 地域版防災マップ	11
※長尾台小学校体育館指定避難所配置図	12
※長尾台小学校避難時使用可能教室	13
(7) 地区防災訓練の実施	14
(8) 資器材、器具等の点検	14
(9) 避難行動要支援者（災害時要援護者）への支援体制の整備	14
(10) 防災計画推進特別委員会設置の流れ	15
（資料編）防災に役立つ情報	
【資料1】 いつ、どこに、どうやって避難したらいいの？	16
【資料2】 事前対策で災害から身を守る	17
【資料3】 そなえる防災（防災グッズ家庭用）	18
【資料4】 コミュニティひばり各地区防災マップ	19～27
【資料5】 コミュニティひばり各地区防災資器材リスト	28
【資料6】 震度と揺れ等の状況	29
【資料7】 近畿で最も危険な断層「上町断層」	30
【資料8】 南海トラフの巨大地震の震度予測	31
【資料9】 地震とその時10ポイント	32
【資料10】 地震に対する10の備え	33

1. 基本方針（地区防災の基本的な考え方）

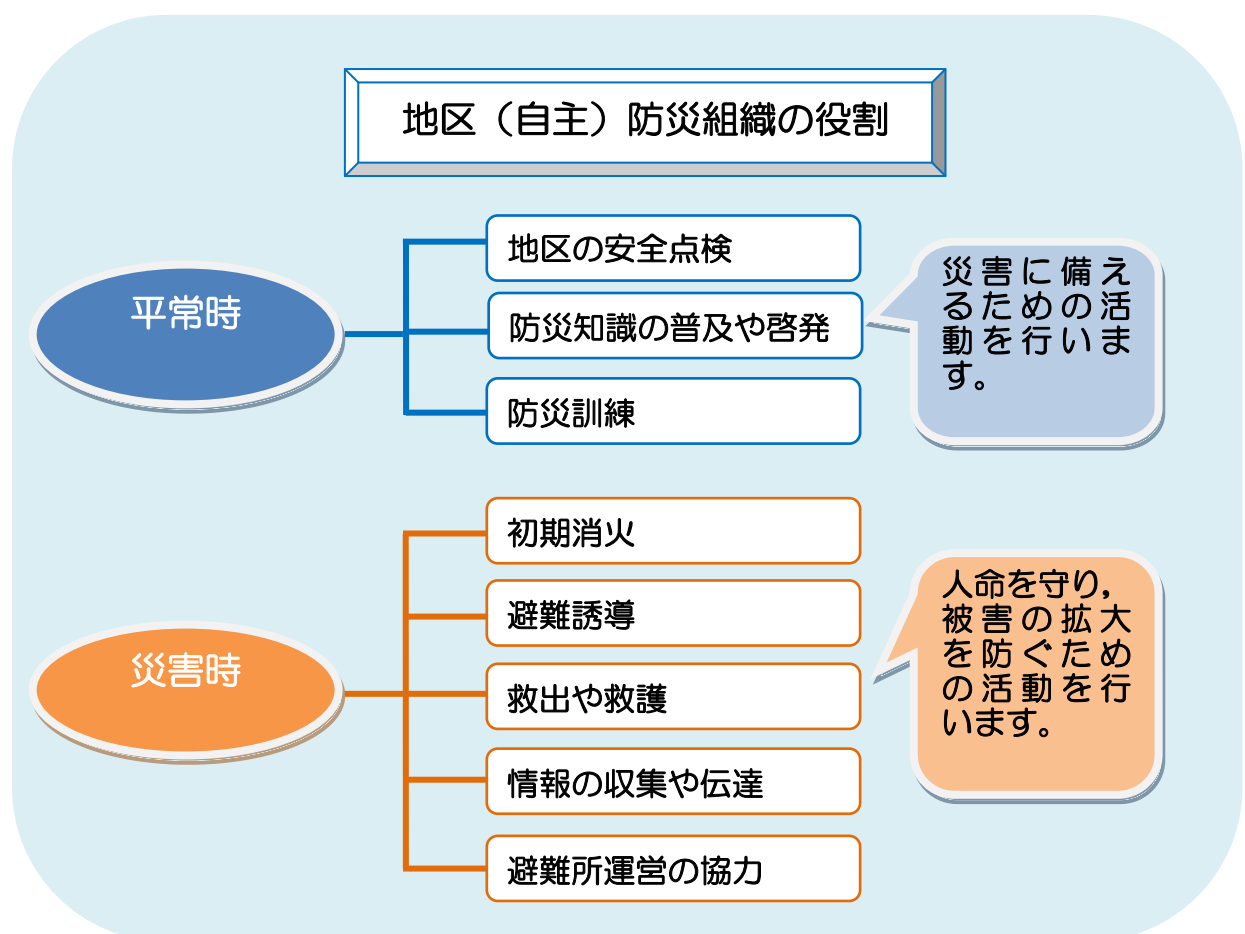
災害が発生した直後は、交通網の寸断・火災の同時多発などにより消防や警察などの防災機関が十分に対応できない可能性があります。そんなとき、力を発揮するのが「地区ぐるみの協力体制」です。

実際に、阪神淡路大震災のときには、地区住民が自発的に救出・救助活動を行い、多くの人命を救うとともに、その後の復興にも大きな力を発揮しました。

また、東日本大震災のときのように避難所生活が長引く場合にも、地区住民が助け合って、さまざまな困難を乗り越えなければなりません。

私たちの地区では、「自分たちの地区は自分たちで守る」という心構えで、地区のみんなで助け合いながら、災害に強いまちづくりを進めます。

この取組を計画的に推進するため、地区住民を主体とした防災組織を構築しこの行動の規範としての「コミュニティひばり地区防災計画」を定め、平常時から備えの充実を図るとともに、災害時における「自助」、「共助」を着実に実行するため、この計画に基づく施策・事業などに取り組み、地区防災力を高めていきます。



2 計画名称・計画対象地区と策定主体

(1) 計画名称 コミュニティひばり地区防災計画

(2) 計画対象地区 宝塚市長尾台小学校地区の全住民

切畑字長尾山		1 番地～3 番地
切畑字長尾山		5 番地～6 番地
切畑字長尾山		17 番地
雲雀丘	1 丁目～2 丁目・4 丁目	
雲雀丘 3 丁目		
雲雀丘山手	1 丁目～2 丁目	
花屋敷荘園	1 丁目～4 丁目	
花屋敷つつじガ丘		
花屋敷松ガ丘		
長尾台	1 丁目～2 丁目	
ふじガ丘		
花屋敷緑ガ丘		
満願寺町		

※対象地区は別添図（防災マップ）参照。

(3) 計画主体及び計画団体

コミュニティひばり地区防災計画策定主体はコミュニティひばりの常任委員に準じる。
(平成 30 年 10 月末現在)

団体名称	面積	世帯数	人口	男（人）	女（人）
雲雀丘（1. 2. 4 丁目）	29. 1	858	2021	931	1090
雲雀丘（3 丁目）	13. 1	294	682	319	363
雲雀丘山手	21. 6	685	1622	736	886
花屋敷つつじガ丘	19. 8	370	743	338	405
花屋敷荘園	40. 7	770	1631	753	878
花屋敷松ガ丘	11. 3	352	768	354	415
長尾台 （花屋敷せいのりの里含む）	18. 3	330	764	370	394
ふじガ丘	12. 2	286	722	335	387
満願寺町	16. 7	166	370	177	193

3 地区の特性と予想される災害

(1) 地区の特性

地質地形的な背景

- ① 長尾山山系の東端に位置し南東から東へ回り込む斜面に位置し、複雑な山麓谷筋に沿い宅地が広がっている。
- ② 当地域には現在土砂災害警戒区域（イエローゾーン）が23箇所、土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）が19箇所指定されているが、岩盤がしっかりしていることで阪神・淡路大震災でも比較的被害が少なかった地域である。これは岩盤の表層の土を樹木の根が補強している構造によるものと考えられる。
- ③ かつては開発規模が小さく、また山麓部の地形を生かし、最小限の造成をするような開発行為であったことで、土砂災害の危険性は少なかったと考えるが、最近は造成工事技術の高度化、機械化に伴い地形を全く変えてしまい、地層構造を考慮しない開発造成が増えたため擁壁によって、斜面の地下水脈の流れが変わり、集中豪雨で深層崩壊につながる自然を無視した強引な開発で、地層面の変化による影響が住民不安として表れている。

(2) 予想される災害

- ①崖崩れ
- ②ブロック塀等の倒壊
- ③倒木
- ④住宅の倒壊

<コラム> 稲むらの火について

安政元年（1854年）11月、紀州広村（現在の和歌山県広川町）は、安政南海地震とそれに伴う津波に見舞われ、36名の死者を出す大きな被害を受けました。その際実業家である濱口悟陵は、村人が逃げる方向を見失わないように、道筋に当たる自身の水田の稲むら（稲束を積み重ねたもの）に火をつけ、村人を安全な場所に導き、村人の9割以上を救いました。また私財で、被災者用家屋の建設等被災者の救済に尽力し、堤防を築きました。この堤防は、昭和21年南海地震の津波が広村を襲った時には、村の移住区の大部分を津波から守りました。

小泉八雲は、この遺業を踏まえて小説を書きましたが、これが後に小学国語読本に掲載されました。この「稲むらの火」は、防災に関する基礎知識を後世に伝えたと高く評価されています。

4 活動内容

(1) 平常時の取組

いざというときに地区の力が発揮できるよう、地区のみんなで協力して防災活動に取り組みます。

ア 防災知識の普及・啓発

防災対策では、地区住民の一人ひとりが防災に関心を持ち、準備することが重要です。地区住民への防災知識の普及や啓発活動を行います。

イ 地区の安全点検

防災の基本は、自分たちの住むまちを知ることです。地区の危険な場所や防災上問題のある場所などを確認し、改善のための働きかけなどを行います。

ウ 防災資器材の整備

防災資器材は、災害発生時に活躍します。地区で防災資器材を整備し、日頃の点検や使い方を確認します。

エ 防災訓練

防災訓練は、いざというとき、あわてず、的確に対応するための欠かせない活動です。地区住民に積極的な参加を呼びかけて、訓練を行います。

(2) 災害時の取組

災害時は、負傷者の発生や火災など様々な事態が発生する可能性があります。公共機関とも連携しながら、みんなで力を合わせて被害の軽減に向けて活動します。

ア 情報の収集・伝達

公共機関などから正しい情報を収集し、地区住民に伝達します。また、地区の被災状況や火災発生状況などを取りまとめ、防災機関へ報告します。

イ 救出・救助活動

自分自身がケガをしないよう注意しながら、みんなで協力して負傷者や家屋の下敷きになった人の救出・救助活動を行います。

ウ 初期消火活動

消防車が到着するまでの間、火災の延焼拡大を防ぐための初期消火活動を行います。

エ 医療救護活動

医師の手当てが受けられるまでの間、負傷者の応急手当をして、救護所へ搬送します。

オ 避難誘導

地区住民を安全な避難場所などへ誘導します。

カ 給食・給水活動

地区で必要な物資を把握し、公共機関とも連携しながら、必要に応じて炊き出しなどの給食・給水活動を行います。

(3) 避難行動要支援者（災害時要援護者）等への支援

災害時に大きな被害を受けやすいのは、高齢者や障害者、子どもなど、人の助けを必要とする人（避難行動要支援者（災害時要援護者））です。こうした避難行動要支援者（災害時要援護者）を災害から守るため、みんなで協力しながら支援を行っていきます。この取組を着実に進めるため、「宝塚市災害時要援護者避難行動支援マニュアル」に基づき、個別支援計画等を定めることが重要です。

ア 避難行動要支援者（災害時要援護者）の身になって、防災環境の点検・改善を行う。

目や耳の不自由な人にも、警報や避難情報がきちんと伝えられるか、避難経路等に障害物や危険な場所はないかなどを点検し、改善に努めます。

イ 避難するときは、しっかり誘導する。

隣近所の助け合いが重要です。一人の避難行動要支援者（災害時要援護者）に複数の避難支援者を決めておきます。

ウ 困ったときこそ温かい気持ちで接する。

非常時こそ、不安な状況に置かれている人にやさしく接する必要があります。

困っている人や避難行動要支援者（災害時要援護者）には、思いやりの心を持って接します。

エ 日頃から積極的にコミュニケーションを図る。

いざというときに円滑に支援ができるよう、日頃から積極的に避難行動要支援者（災害時要援護者）とのコミュニケーションを図ります。

5 地区の防災対策（具体的な対策）

（1）防災体制

組織名称等	地区の状況		
コミュニティひばり地区	世帯数：4117 人 口：9332 平成 30 年 10 月末現在		
1 コミュニティひばり地区防災委員会の体制	会長	満願寺自治会代表	
	副会長	長尾台自治会代表	
	ふじガ丘自治会代表	花屋敷松ガ丘自治会代表	
	雲雀丘 3 丁目自治会代表	花屋敷つつじガ丘自治会代表	
	花屋敷荘園自治会代表	雲雀丘山手自治会代表	
	雲雀丘自治会代表	特別養護老人ホーム花屋敷栄光園	
2 避難場所等	施設名	電話番号	
① 指定避難場所	長尾台小学校	TEL072-757-8810	
	雲雀丘学園	TEL072-759-3080	
② 予備避難所	雲雀丘サービスステーション雲雀丘倶楽部		
	松ガ丘会館		
③ 福祉避難所	特別養護老人ホーム花屋敷栄光園		
④ 届出避難場所	長尾台自治会館	nagaodaijichikai@gmail.com	
	ふじガ丘自治会館		
	花屋敷荘園自治会館		
⑤ 緊急避難場所	満願寺ふれあい会館	TEL072-756-1244	
⑥ AED 設置場所	満願寺ふれあい会館	雲雀丘ゴルフ倶楽部	雲雀丘学園
	雲雀丘サービスステーション雲雀丘	特別養護老人ホーム花屋敷栄光園	松ガ丘会館
	セブン・イレブン 阪急雲雀丘花屋敷駅前店	愛宕原ゴルフ倶楽部	つつじガ丘交番
	花屋敷グラウンド	阪急雲雀丘花屋敷駅	長尾台小学校
3 緊急時の連絡先	連絡先		電話番号
	宝塚市役所		TEL0797-71-1141
	雲雀丘サービスセンター		TEL072-759-2062
	東消防署雲雀丘出張所		TEL072-759-3900
	宝塚市立病院		TEL0797-87-1161

	宝塚警察署（つつじガ丘交番）	TEL0797-85-0110
	上下水道局	TEL0797-73-3681
	関西電力（阪神営業所）	TEL0800-777-8043
	大阪ガス 兵庫導管部（）	TEL0120-7-19424
	N T T 西日本	TEL116
	災害用伝言ダイヤル	TEL171
	災害用伝言板 Web	https://www.web171.jp
	花屋敷地域包括支援センター	TEL072-740-5087
	宝塚市社会福祉協議会中山台地区センター	TEL090-5360-4894
	宝塚市社会福祉協議会民生委員事務局	TEL090-5360-4894
	神秀山満願寺	TEL072-759-2452
	トラストガーデン	TEL072-757-3700
	末日聖徒イエス・キリスト教会花屋敷	TEL072-759-0290
	宝塚大学	TEL072-756-1231
4 その他特記事項		

避難所の種類

まずは開設された指定避難所へ避難してください。その後、必要に応じ予備避難所、福祉避難所へ振り分けが行われます。

指定避難所 小・中学校など。市が基本的に最初に開設する避難所。

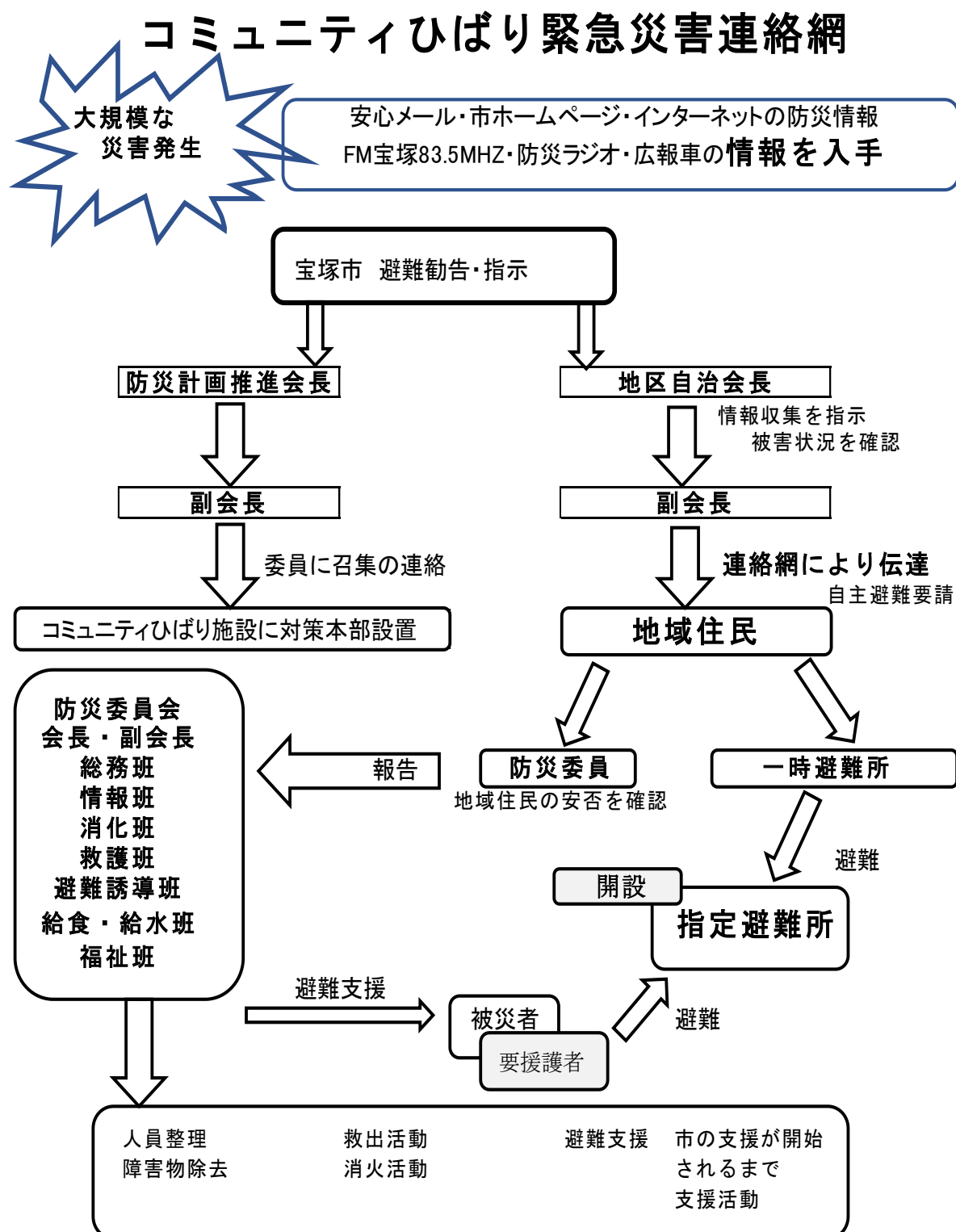
予備避難所 公民館、地域利用施設など。高齢者や障がい者、そのほか支援が必要な要配慮者が優先となる避難所。

福祉避難所 特別な支援を必要とする要配慮者

(2) 活動体制

班名	担当者 (団体名)	平常時の役割	災害時の役割
総務班 (本部)	ふじガ丘 地区	全体調整 関係機関との事前調整	全体調整 関係機関との調整 被害・避難状況の全体把握
情報班	雲雀丘3丁目 地区	啓発・広報 組織を編成、連絡調整 連絡網の整備 防災計画、避難経路マップの 伝達	公共機関等からの情報収集・ 伝達 被災状況、危険箇所及び避難 状況の確認 安否情報、招集情報お災害本 部へ伝達
消火班	花屋敷荘園 地区	器具の整備・点検 火災予防活動の実施 初期消火訓練の実施 耐震化、家具お転倒防止の 普及防火活動	消火器・バケツリレーなど による初期消火 初期消火活動や火災の警戒 避難所の警備 地域の防犯啓発
救出・救護班	雲雀丘地区	資機材・器具の整備・点検 応急救護訓練普及	負傷者の救出・応急手当・救 護所への搬送
避難誘導班	満願寺町 長尾台地区	避難経路の点検 避難場所、避難経路の周知	住民の避難誘導 危険箇所情報収集 避難所情報発信 (開設、避難所へのルート)
給食・給水班	花屋敷松が丘 花屋敷つつじ ガ丘地区	器具の整備・点検 備蓄の啓発	炊き出し等の給食・給水活動
福祉班	雲雀丘山手 地区	避難行動要支援者(災害時要 援護者)の支援体制の整備	避難行動要支援者(災害時要 援護者)への支援 被災者の体調管理
民生委員		日頃の見守り 情報管理	福祉班により情報を収集する 福祉班に情報を提供し必要に 応じ指示する

(3) 地区の連絡網



(4) 防災関連施設

医療機関

種別	名称	住所	連絡先
救急指定医療機関	宝塚市立病院	小浜 4 丁目 5 - 1	0797-87-1161
〃	宝塚病院	野上 2 丁目 1 - 2	0797-71-3111
	宝塚第一病院	向月町 1 9 - 5	0797-84-8811
〃	こだま病院	御殿山 1 丁目 3 - 2	0797-87-2525
〃	東宝塚さとう病院	長尾町 2 - 1	0797-88-2200

<コラム> 釜石の奇跡について

平成 23 年 3 月の東日本大震災では、大津波が甚大な被害を及ぼしましたが、岩手県釜石市内の児童・生徒の多くが無事でした。この事実は「釜石の奇跡」と呼ばれ大きな反響を呼びました。

なかでも、海からわずか 500m 足らずの近距離に位置しているにもかかわらず、釜石東中学校と鶴住居（うのすまい）小学校お児童・生徒約 570 名は、地震発生と同時い全員が迅速に避難し、押し寄せる津波から生き延びる事ができました。その際、中学生は小学生の手を引き、津波から逃げ切りました。

このように、積み重ねられてきた防災教育が身を結び、自助・共助によって、児童・生徒の命が救われました。

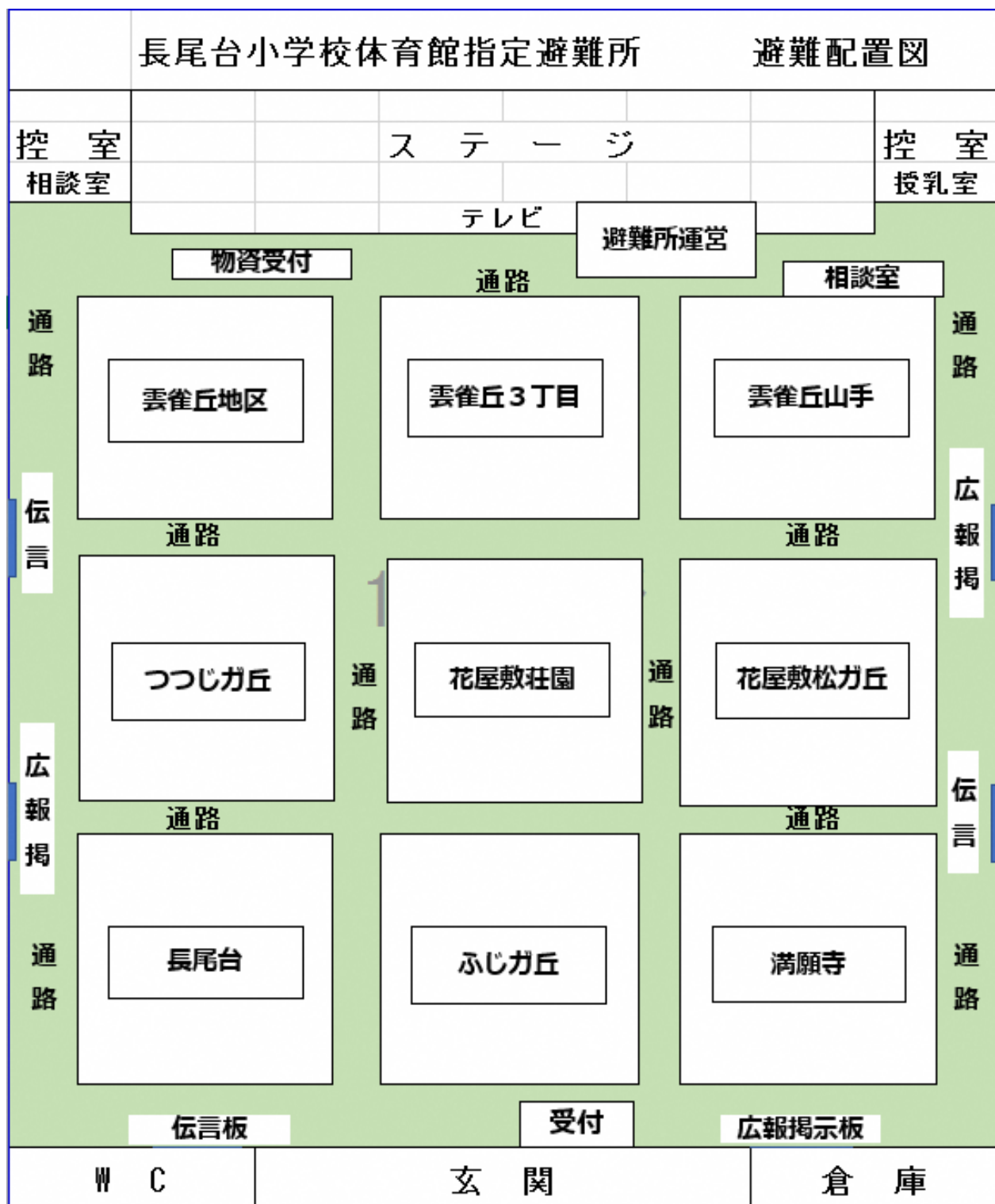
(5) 防災資機材等

自治会（自主防災会）が保有する防災資機材

※別紙参照

(6) 地域版防災マップ

※別紙参照

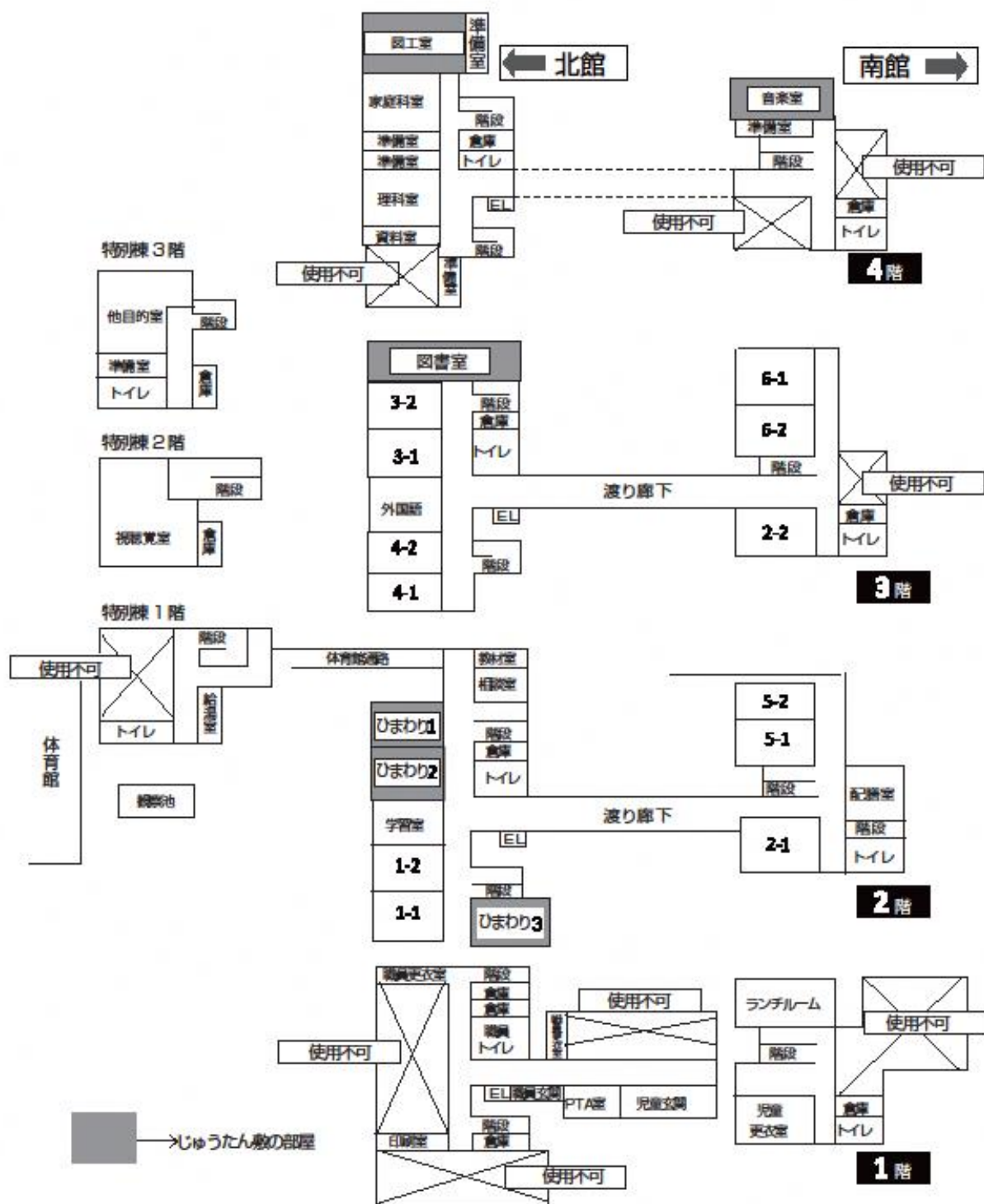


注意！ 各教室は、個人の判断ではなく、コミュニティの指示に従い
使用して下さい。

×印の教室は使用不可です。

教室配置図

避難時使用可能 教室



※注意！ 各教室は、個人の判断ではなく、コミュニティの指示に従い使用してください。
×印の教室は使用不可です。

(7) 地区防災訓練の実施

災害発生時に、地区住民が「地区防災計画」に沿って適切な行動ができるよう、市や消防局等とも連携しながら、次の訓練を中心とした地区防災訓練を毎年度実施します。

- ア 避難訓練（避難行動要支援者（災害時要援護者）の支援を含む）
- イ 情報収集・伝達訓練
- ウ 応急訓練
- エ 給食・給水訓練
- オ 啓発活動

訓練の実施後は、訓練結果を検証し次回訓練に反映するなど、定期的に活動内容を見直し、必要があれば「地区防災計画」の見直しを行います。

(8) 資器材、器具等の点検

活動体制の各班を中心に、資器材、器具等の点検を定期的実施します。

班名	担当者 (団体名等)	内容	時期
消火班	ふじガ丘	消火用器具の点検（整備）	地区防災訓練前
救出・救護班	雲雀丘	防災資器材・救出用器具の点検（整備）	地区防災訓練前
避難誘導班	満願寺町 長尾台	避難経路の点検（整備）	毎年度
給食・給水班	花屋敷松ガ丘 花屋敷つつじ ガ丘	給食・給水器具の点検（整備）	地区防災訓練前

(9) 避難行動要支援者（災害時要援護者）への支援体制について

災害が起きた時に自力で避難することが困難な高齢者・障がい者（災害時要支援者）の情報を本人の同意を得た上で地域の避難支援組織（自治会・まちづくり協議会・民生委員・児童委）に地域の中で安否確認や情報提供等の支援が受けられるように努めます。

(10) 防災計画推進特別委員会設置の流れ

コミュニティひばり「防災計画推進特別委員会」設置の流れ

平成 27 年

6 月 宝塚市役所都市安全部危機管理室総合防災課 説明会開催

※改革対象地区 長尾台小学校区（コミュニティひばり）地区

※計画策定主体 コミュニティひばり 9 自治会各種活動団体



7 月 特別委員会設置に向けての検討

8 月 自治会長向け 特別委員会設置のための説明、アンケート調査協力依頼



9 月 アンケート回収まとめ（現状把握の資料とする）

1. 地区防災計画のチェックリスト「地区の危険な箇所」自治会ごとに集計
2. その箇所から起こる自然災害の特性を把握・予想される災害を共有
3. 自治会における防災対策の現状を把握（災害時連絡体制・一時避難場所）



9 月 運営委員会にて、防災アンケート調査のまとめ 報告

特別委員会の設置にむけての具体的な話し合い

1. 地区防災の基本「自分たちの地区は自分たちで守る」
「みんなで助け合う」「防災に強いまちづくり」など
2. 住民を主体とした防災組織にするための構成メンバーを考える
3. 特別委員会の役割を明確にする



「防災計画推進特別委員会」委員の公募（コミュニティひばりしんぶん）

11 月 「防災計画推進特別委員会」設置・委員会の定例開催

宝塚市地区防災計画作成マニュアルを参考に着手

1. 活動内容 ①平常時の取組 ②災害時の取組
2. 災害時要援護者等への支援の取組を考える
3. 地区の防災対策具体的な①防災体制 ②活動体制 ③地区の連絡網
④防災関連施設（医療機関・災害時要援護者施設・その他の施設）
- ④ 災資器材の確認（自治会ほか）⑥地域版防災マップ
- ⑦ 区防災訓練の実施 ⑧資器材、器具等の点検
- ⑨災害時要援護者への支援体制の整備

平成 28 年 9 月 第 1 回防災計画推進特別委員会



平成 30 年 9 月 第 2 1 回 毎月委員会の開催

いつ、どこに、どうやって 避難したらいいの？



いつ避難したらいいの？

災害の発生が差し迫り避難が必要になった場合には、お住まいの自治体より、避難準備情報や避難勧告、避難指示が発令されます。

お知らせ方法は自治体によりますが、テレビ、安心メール・市ホームページ、FM宝塚・防災ラジオ、市町村防災行政無線、緊急速報メール、ツイッター等のSMS、広報車・消防団による広報、電話、FAX・登録制メール、消防団・警察・自主防災組織・近隣住民等による声掛けなどが行われています。

どこに避難したらいいの？

従来は、小中学校の体育館や公民館といった避難所と呼ばれる施設への避難が一般的でした。しかし、外が危険な場合には、無理をせず自宅の2階や近くの高い建物に避難することが適切な場合もあります。そのため、避難所と呼ばれる場所への移動だけでなく、次の全ての行動が避難行動となります。

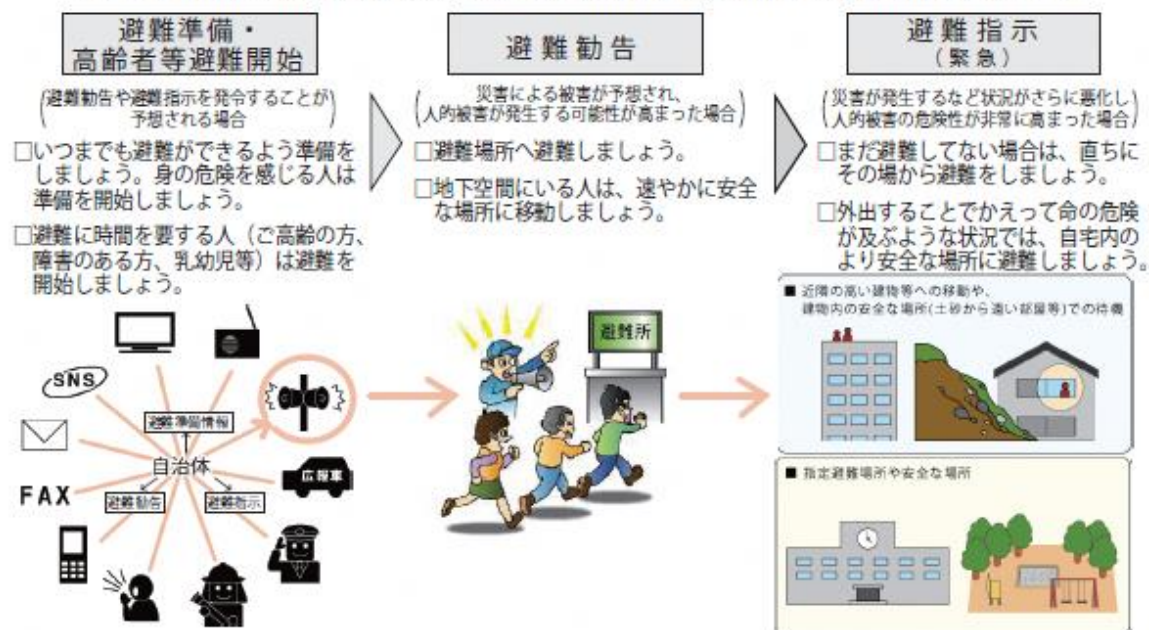
- ・指定避難場所（※）への避難
- ・建物内の安全な場所での待機
- ・公園、親戚や友人の家など安全な場所への移動
- ・近隣の高い建物等への移動

避難勧告等が発令されたら、どうしたらいいの？

避難勧告等が発令された場合には、率先して避難を始めてください。

その行動が周囲の避難を促し、命を救うことにもなります。

- ・必ずしもこの順番で発令されるとは限らないのでご注意ください。
- ・以下の情報が発令されていなくても、身の危険を感じる場合は避難を開始してください。



事前対策で災害から身を守る

作ろう 我が家の 防災マップ

ためす

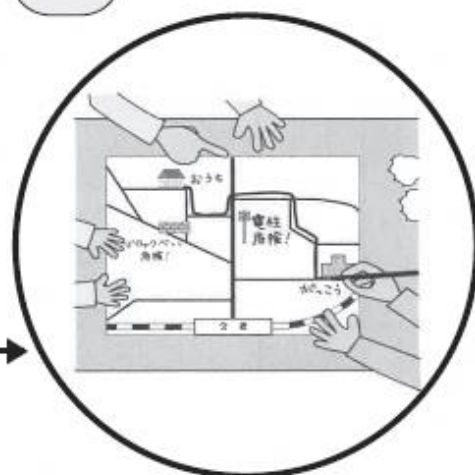
通学路や通勤路など生活の行動範囲の中で、どこが危険で何が安全かチェックしてマップを作ってみる。また雨対策には、小雨の時の「雨の日散歩」。水がどこに向かって流れているのか、安全とリスクを確認し、濁流の時や夜間にどこを通ればいいのかを事前に見ておくことが大事。自分を守るために、ちょっとひと手間かけてみよう。

くんれん

今 す ぐ 防 災

安全ゾーンは玄関

自身速報のアラームやちいさな揺れの時にすぐに安全ゾーンに行くクセをつける。一般的に玄関は柱も多く、避難路が確保しやすい場所。すぐにドアを開けサムターンを回し、手を離しても閉まらない様にする。そして靴を履く。



備蓄は 1 週間分

大規模災害に備え 1 週間分は必要。
普段使うものを十分用意する日常備蓄が大事。

住宅避難生活訓練

キャンプのつもりで電気、ガス、水道を止めて
1 日暮らしてみる。
トイレの消臭や懐中電灯の数、冬場のカイロなど、
経験して発見する事がある。

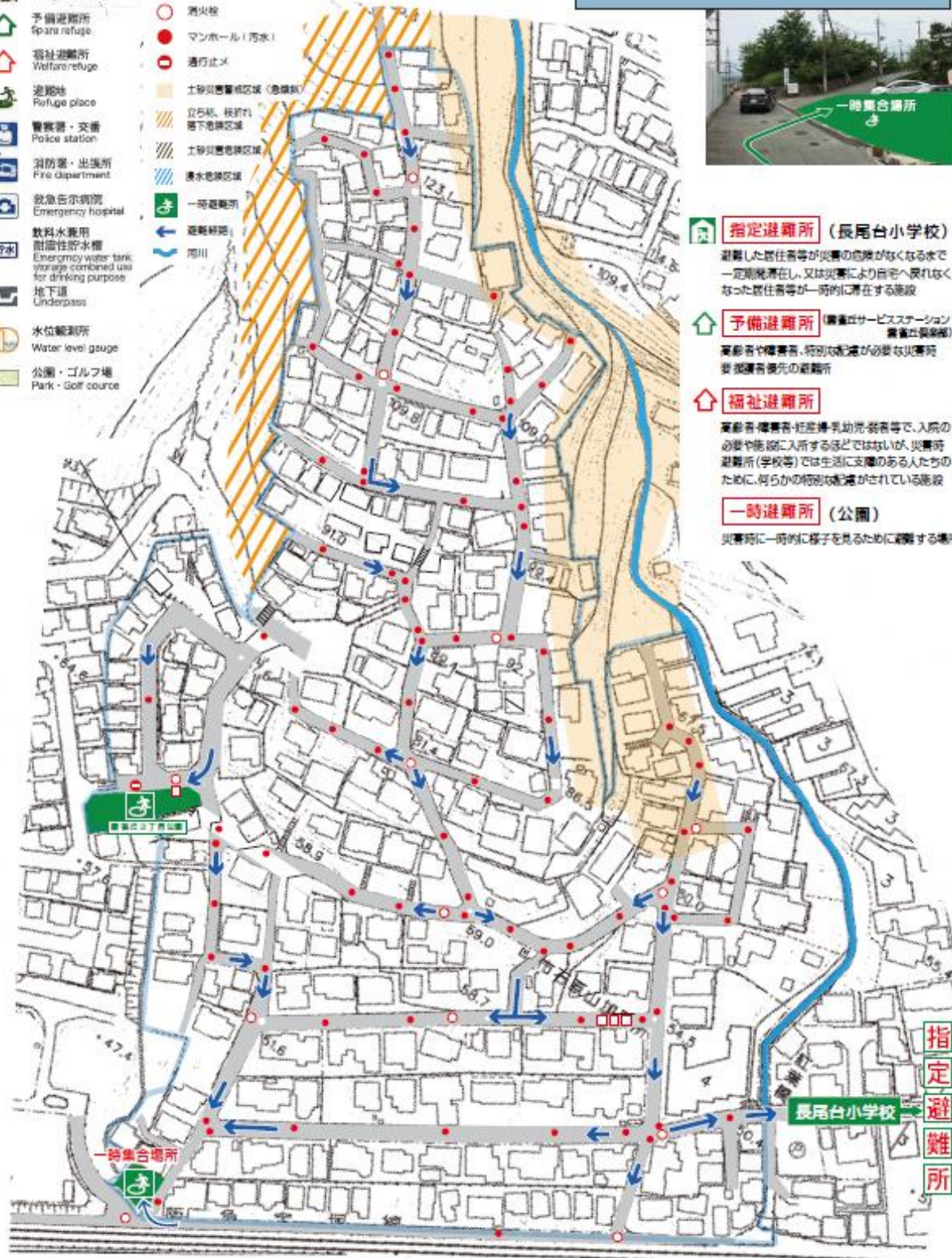
 現金	そなえる防災 防災グッズ 家庭用 TOOL TO KEEP IN STOCK AT HOME		 口臭ケア用 ウェットティッシュ (ボトルタイプ100枚入5本程度)
 ロープ	 通帳・印鑑・カード	 ヘッドライト	 乾電池
 携帯ラジオ	 ポリ袋 (大・中・小、各50枚程度)	 皮手袋	 歩きやすい運動靴
 LEDランタン	 水 (1日2リットル×7日分×家族分)	 非常食 (4～5日分)	 リュックサック
 救急セット	 カセットコンロ カセットボンベ (ボンベは15～20本)	 ヘルメット	 簡易トイレ (60～70枚)

凡例

-  指定避難所
Designated refuge
-  予備避難所
Spare refuge
-  福祉避難所
Welfare refuge
-  避難地
Refuge place
-  警察署・交番
Police station
-  消防署・出張所
Fire department
-  救急告示病院
Emergency hospital
-  飲料水兼用
耐震性貯水罐
Emergency water tank
combined use
for drinking purpose
-  地下道
Underpass
-  水位観測所
Water level gauge
-  公園・ゴルフ場
Park・Golf course

-  防火水曜
-  消火栓
-  マンホール（汚水）
-  通行止め
-  土砂災害警戒区域（危険区）
-  立石崩、枝折れ
落下危険区域
-  土砂災害警戒区域
-  浸水危険区域
-  一時避難所
-  避難経路
-  河川

雲雀丘三丁目地区防災マップ



指定避難所（長尾台小学校）

避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、又は災害により自宅へ戻れなくなった居住者等が一時的に滞在する施設

予備避難所（商業サービスステーション 雲雀丘駅前店）

高齢者や障害者、特別な配慮が必要な災害時要援護者優先の避難所

福祉避難所

高齢者・障害者・妊娠・育児・高齢者等で、入所の必要や施設に入所するほどではないが、災害時避難所（学校等）では生活に支障のある人たちのために、何らかの特別な配慮がされている施設

一時避難所（公園）

災害時に一時的に様子を見るために避難する場所

指定避難所

長尾台小学校

一時集合場所

花屋敷松ガ丘地区防災マップ

指定避難所 (長尾台小学校)
避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、又は災害により自宅へ戻れなくなった居住者等が一時的に滞在する施設

予備避難所 (松ガ丘会館)
高齢者や障害者、特別な配慮が必要な災害時要援護者優先の避難所

福祉避難所
高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・弱者等で、入院の必要や施設に入所するほどではないが、災害時避難所(学校等)では生活に支障のある人たちのために、何らかの特別な配慮がされている施設

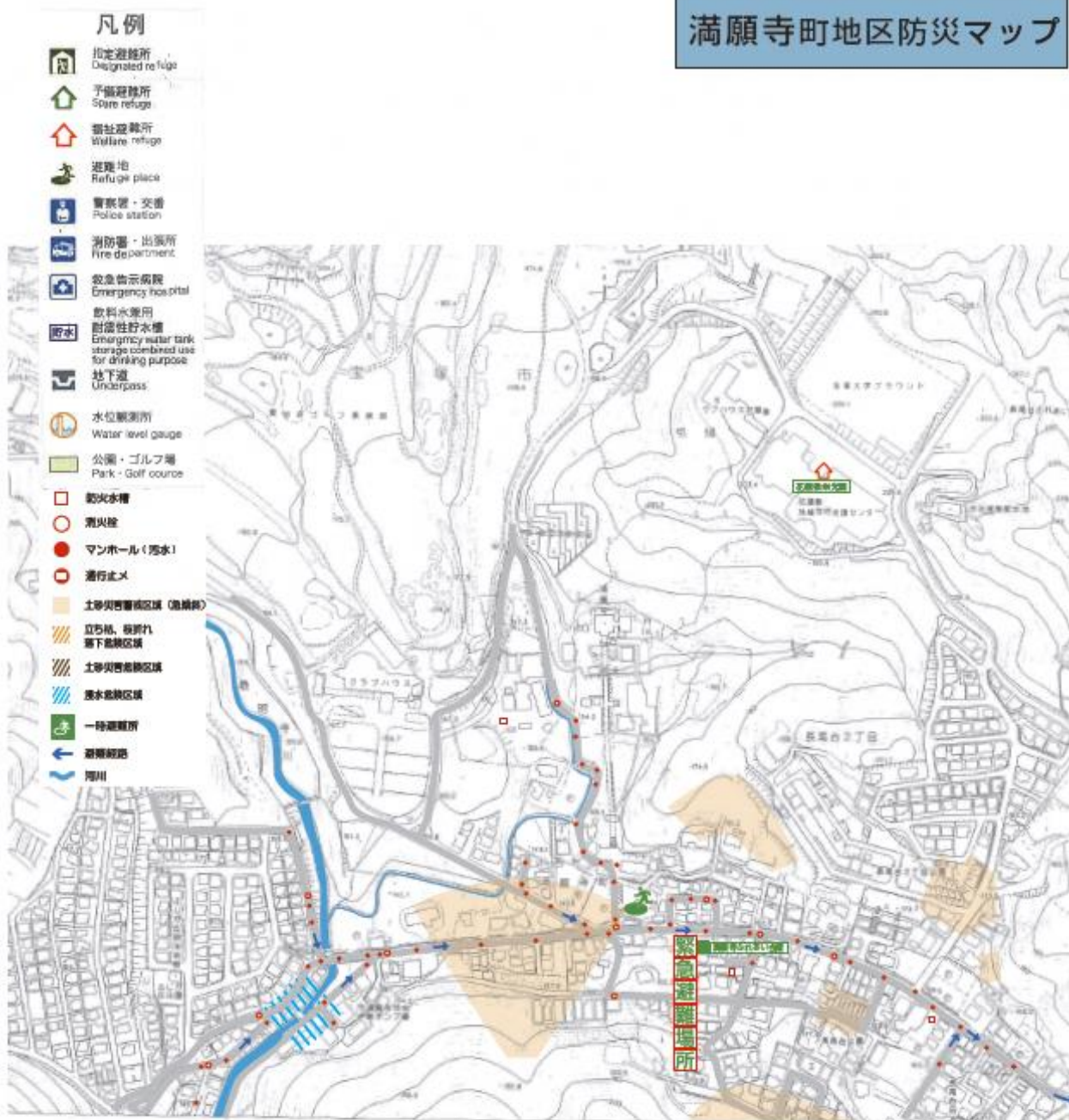
一時避難所
災害時に一時的に様子を見るために避難する場所



花屋敷つつじガ丘地区防災マップ



満願寺町地区防災マップ



指定避難所 (長尾台小学校)

避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、又は災害により自宅へ戻れなくなった居住者等が一時的に滞在する施設

予備避難所 (緊急サービスステーション 緊急災害対策本部)

高齢者や障害者、特別な配慮が必要な災害時要援護者優先の避難所

福祉避難所

高齢者や障害者、妊産婦・乳幼児・幼者等で、入院の必要や施設に入所するほどではないが、災害時避難所(学校等)では生活に支障のある人たちのために、何らかの特別な配慮がされている施設

緊急避難場所 (満願寺ふれあい会館)

命を守ることを最優先に、災害の危険から逃れるための場所

一時避難所 (公園)

災害時に一時的に様子を見るために避難する場所

ふじガ丘地区防災マップ



長尾台地区防災マップ

指定避難所 (長尾台小学校)

避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、又は災害により自宅へ戻れなくなった居住者等が一時的に滞在する施設

予備避難所 (園遊サービスステーション 園遊が須崎町)

高齢者や障害者、特別な配慮が必要な災害時要援護者優先の避難所

福祉避難所

高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・幼者等で、入所の必要や施設に入所するほどではないが、災害時避難所(学校等)では生活に支障のある人たちのために、何らかの特別な配慮がされている施設

届出避難所 (長尾台自治会館)

住水の身近にある自治会館を避難場所として自主的に開設する

一時避難所 (公園)

災害時に一時的に様子を見るために避難する場所

凡例

指定避難所
Designated refuge

予備避難所
Spare refuge

福祉避難所
Welfare refuge

避難地
Refuge place

警察署・交番
Police station

消防署・出張所
Fire department

救急告示病院
Emergency hospital

飲料水兼用
耐震性貯水槽
Emergency water tank
storage combined use
for drinking purpose

地下道
Underpass

水位観測所
Water level gauge

公園・ゴルフ場
Park・Golf course

防火水槽

消火栓

マンホール(汚水)

通行止め

土砂災害警戒区域(危険部)

立ち入り、夜間、
落下危険区域

土砂災害警戒区域

浸水危険区域

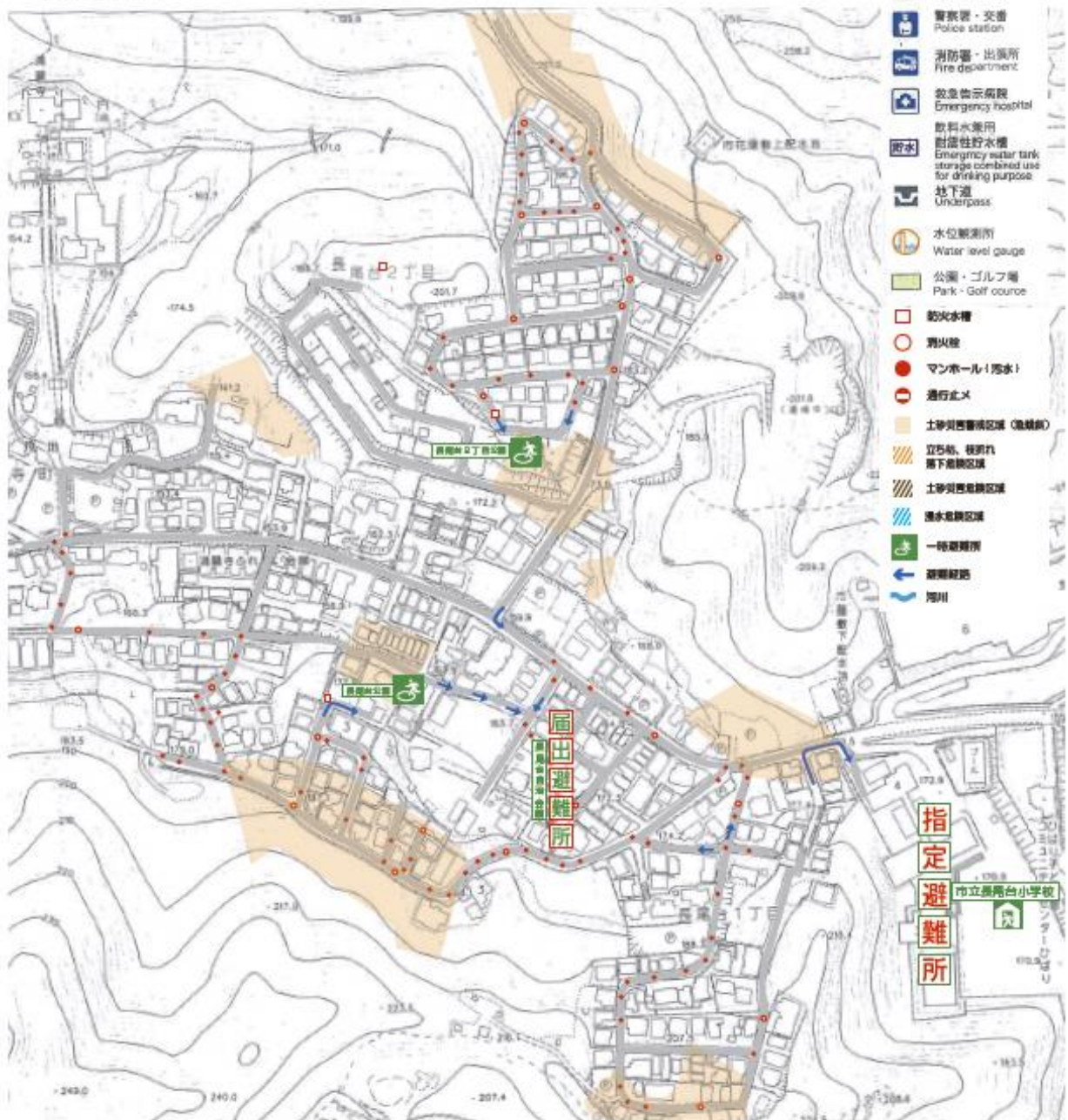
一時避難所

避難経路

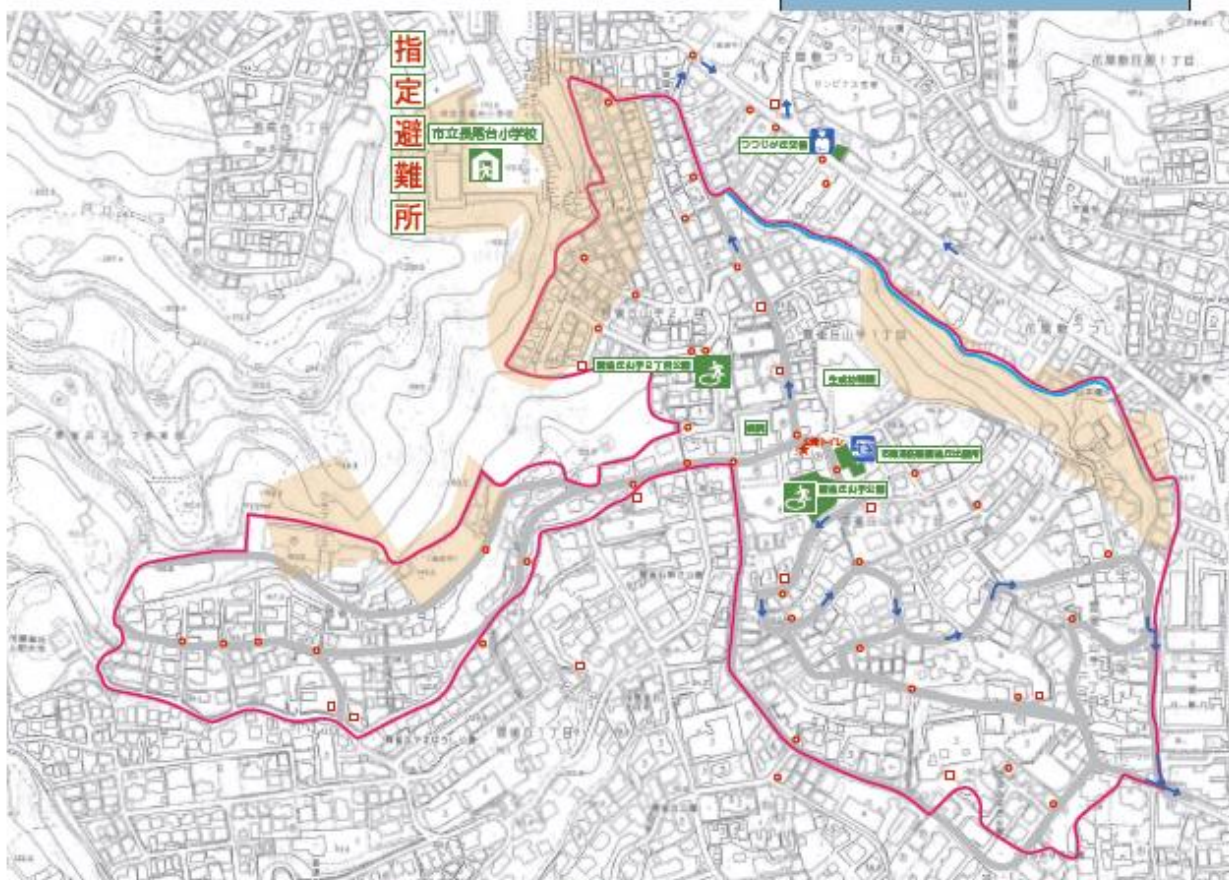
河川

指定
避難所

市立長尾台小学校



雲雀丘山手地区防災マップ



凡例

- 指定避難所
Designated refuge
- 予備避難所
Spare refuge
- 福祉避難所
Welfare refuge
- 避難地
Refuge place
- 警察署・交通
Police station
- 消防署・出張所
Fire department
- 救急告示病院
Emergency hospital
- 飲料水兼用
耐震性貯水罐
Emergency water tank
storage combined use
for drinking purpose
- 地下道
Underpass
- 水位観測所
Water level gauge
- 公園・ゴルフ場
Park・Golf course

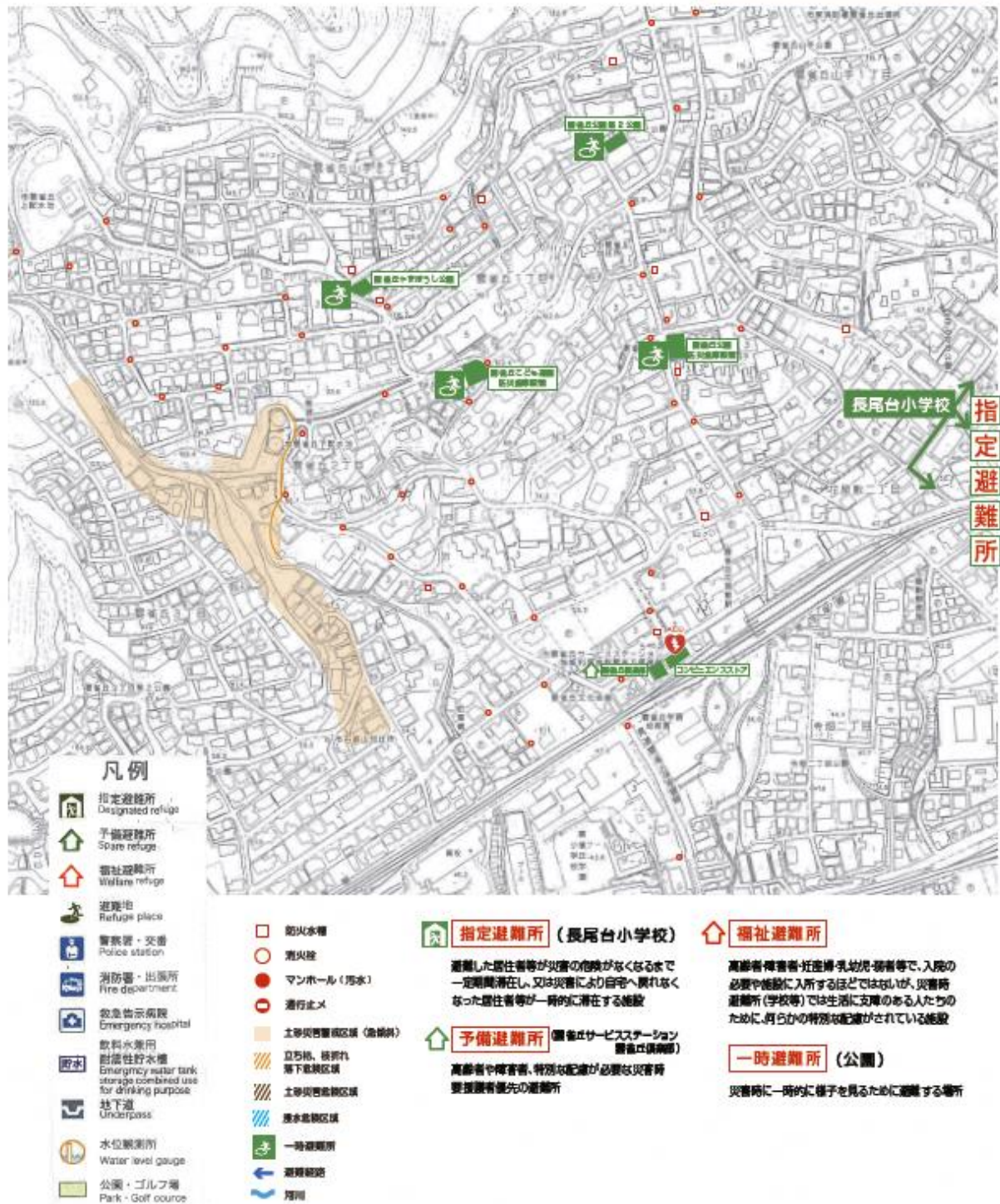
- 防火水槽
- 消火栓
- マンホール（汚水）
- 通行止め
- 土砂災害警戒区域（危険箇所）
- 立ちどめ、浸透れ
- 地下敷設区域
- 土砂災害警戒区域
- 洪水危険区域
- 一時避難所
- 避難経路
- 河川

- 指定避難所**（長尾台小学校）
避難した居住者等が災害の危険がなくなるまで一定期間滞在し、又は災害により自宅へ戻れなくなった居住者等が一時的に滞在する施設
- 予備避難所**（雲雀丘サービスステーション 雲雀丘奥南邸）
高齢者や障害者、特別な配慮が必要な災害時要援護者優先の避難所
- 福祉避難所**
高齢者・障害者・妊産婦・乳幼児・弱者等で、入院の必要や施設に入所するほどではないが、災害時避難所（学校等）では生活に支障のある人たちのために、何らかの特別な配慮がされている施設
- 一時避難所**（公園）
災害時に一時的に様子を見るために避難する場所

花屋敷荘園地区防災マップ



雲雀丘地区防災マップ



	コミュニティひばり各地区防災資機材リスト											
目的	品名	雲雀丘	雲雀丘 3丁目	雲雀丘 山手	つつじ ガ丘	花屋敷 松ガ丘	花屋敷 荘園	長尾台	満願寺町	ふじガ丘	栄光園	ケアハ ウス
情報収集	トランシーバー							4	9	0		
	メガホン				7					2	2	1
	拡声器					1		3	5	1		
	ラジオ		1		1		6			2	1	1
	防災無線 サイレン	2							1			
初期消火	小型動力ポンプ									0		
	発電機						1		2	1	4	
	消防用ホース						1	1	1	1		
	消火器	3		2		2		2	2	4		
	ヘルメット	10		10	10	10	10	10	13	20	32	16
	水バケツ	17		3	3	3	8	3	42	3		
	砂袋								10	20		
救出	バール	2		2		2	3	2	2	1	1	1
	はしご									1		
	かけや									1		
	のこぎり			2	2	2	2	2		2	1	3
	スコップ	5		3	3	3	11	3		3		
	おの								1	1		
	なた						1		1	1		
	ジャッキ	2		2	2	2	2	2	1	2		
	ハンマー	2			2	2	2	2	1	2		3
	ロープ							1	5	3	1	
	結束ベルト									3		
	ボルトクリッパー				1				1	1		
	チェーンソー							1	1	0		
	小型ウィンチ									0		
	防煙マスク									0	500	50
	防塵マスク									0		
	鉄棒				2							
	鎌						2					
	木槌						1					
	つるはし			2								
救護	担架	1					1			1		2
	救急箱	2		2		2		1	1	1	2	1
	毛布				10		4	18		5	60	
	車いす						1					
	投光器			2				2	3	2	1	
	強カライト						1		6	1	30	5
	ヘッドランプ								5			
	懐中電灯					1	6	7	2	3	2	8
	赤色灯	2			6							
	コードリール			1			1	1	4	2	3	3
	ガソリン携行缶							1	1	2		
	延長コード											5
	ガソリン											1
給食・給水	ポリタンク										4	
	釜			1					1	1		
	鍋			4			6	2	1	1		
	鉄板								1			
	PLポンプ								1	1		
	給水タンク α 化米								5 1箱		600	900
目的	品名	雲雀丘	雲雀丘 3丁目	雲雀丘 山手	つつじ ガ丘	花屋敷 松ガ丘	花屋敷 荘園	長尾台	満願寺町	ふじガ丘	栄光園	ケアハ ウス
給食・給水	ビスケット											120
	味噌汁/スープ										1200	1000
	レトルト食品										1017	
	飲料水										1020	912
	コンロ								4	1	29	2
	カセットコンロ						3		2			
	やかん						2					
その他	テント			1					3	1	1	
	ビニールシート							3	5	4	1	1
	機材倉庫								2	2		
	乾電池							相当数	相当数	相当数		
	荷造りロープ							1	3	3		
	雨カッパ						35		8			
	長靴							6	6			
	軍手								相当数		30	50
	使い捨て手袋											300
	充電器								2			
	ホイッスル								20			
	一輪車			1								
	折り畳みリヤカー			1								
	タオル										100	20

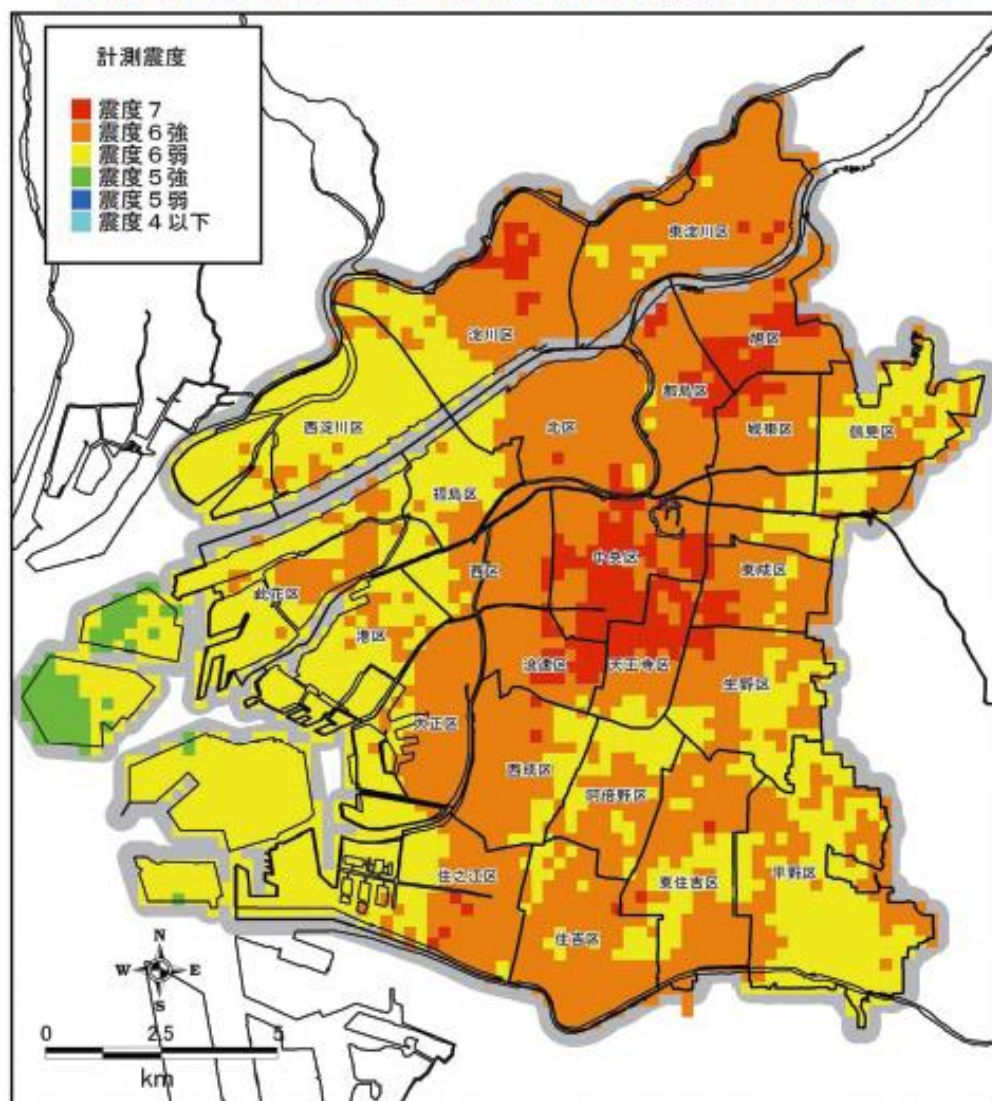
震度と揺れ等の状況

～地震の強さを表す震度：震度5弱以上で被害がでる～



近畿で最も危険な断層「上町断層」

～上町断層系の活動による地震(上町断層地震)の想定震度分布～



<宝塚市は震度6弱>

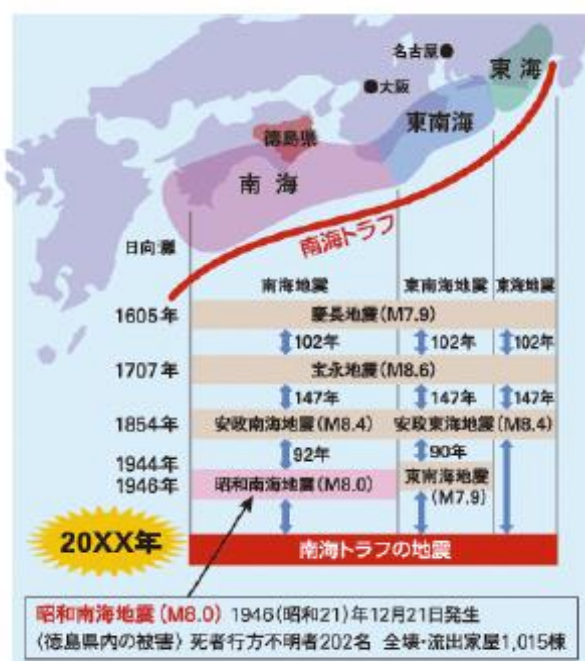
6弱

【震度6弱】

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたりすることがある。倒れるものもある。



南海トラフの巨大地震の震度予測



～宝塚は震度5強程度となる～

5強



【震度5強】

- 物につかまらないうと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本で落ちるものが多くなる。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

- 人口・生産・物流の集中域が一網打尽の災害が発生する。
- 被災者支援・復旧にかかる日時は神戸地震や3.11とは大いに異なる。

地震 ～その時10のポイント～

地震時の行動

地震だ！ まず身の安全

- ・揺れを感じたり、緊急地震速報を受けた時は、身の安全を最優先に行動する。
- ・丈夫なテーブルの下や、物が「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」空間に身を寄せ、揺れがおさまるまで様子を見る。

【高層階（概ね10階以上）での注意点】

- 高層階では、揺れが数分続くことがある。
- ・大きくゆっくりとした揺れにより、家具類が転倒・落下する危険に加え、大きく移動する危険がある。



地震直後の行動

落ちついて火の元確認 初期消火

- ・火を使っている時は、揺れがおさまってからあわてずに火の始末をする。
- ・出火した時は、落ちついて 消火する。



あわてた行動 けがのもと

- ・屋内で転倒・落下した家具類やガラスの破片などに注意する。
- ・瓦、窓ガラス、看板などが落ちてくるので外に飛び出さない。



窓や戸を開け 出口を確保

揺れがおさまった時に避難ができるよう出口を確保する。



門や塀には近寄らない

屋外で揺れを感じたらブロック塀などには近寄らない。



地震後の行動

火災や津波 確かな避難

- ・地域に大規模な火災の危険がせまり、身の危険を感じたら、一時集合場所や避難場所に避難する。
- ・沿岸部では、大きな揺れを感じたり、津波警報が出されたら、高台などの安全な場所に素早く避難する。



正しい情報 確かな行動

ラジオやテレビ、消防署、行政などから正しい情報を得る。



確かめ合おう わが家の安全 隣の安否

わが家の安全を確認後、近隣の安否を確認する。



協力し合って 救出・救護

倒壊家屋や転倒家具などの下敷きになった人を近隣で協力し、救出・救護する。



避難の前に 安全確認電気・ガス

避難が必要な時には、ブレーカーを切り、ガスの元栓を締めて避難する。



地震に対する10の備え

身の安全の備え

家具類の転倒・落下・移動防止対策をしておこう

- ・けがをしったり、避難に支障がないように家具を配置しておく。
- ・家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒・落下・移動防止措置をしておく。



けがの防止対策をしておこう

- ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラスの飛散防止措置をしておく。
- ・停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
- ・散乱物でケガをしないようにスリッパやスニーカーなどを身近に準備しておく。



家屋や塀の強度を確認しておこう

- ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
- ・ブロックやコンクリートなどの塀は倒れないように補強しておく。



初動対応の備え

消火の備えをしておこう

- ・火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置き（濡れ防止のため子どもだけで浴室に入れないようにする）をしておく。



火災発生時の早期発見と防止対策をしておこう

- ・火災の早期発見のために、住宅用火災警報器を設置しておく。
- ・普段使用しない電気器具は差込みプラグをコンセントから抜いておく。
- ・電気やガスに起因する火災発生防止のため感震ブレーカー、感震コンセントなどの防災機器を設置しておく。



非常用品を備えておこう

- ・非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
- ・車載ジャッキやカーラジオなど身の周りにあるものの活用を考えておく。



確かな行動の備え

家族で話し合っておこう

地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
外出中に家族が帰宅困難になったり、離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
普段のつき合いを大切にするなど隣り近所との協力体制を話し合っておく。



地域の危険性を把握しておこう

- ・自治体の防災マップ等で自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。
- ・自宅や学校、職場周辺を実際に歩き、災害時の危険箇所や役立つ施設を把握し、自分用の防災マップを作っておく。



防災知識を身につけておこう

- ・新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどから、防災に関する情報を収集し知識を身につけておく。
- ・消防署などが実施する講演会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。



防災行動力を高めておこう

日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身に付けておく。

